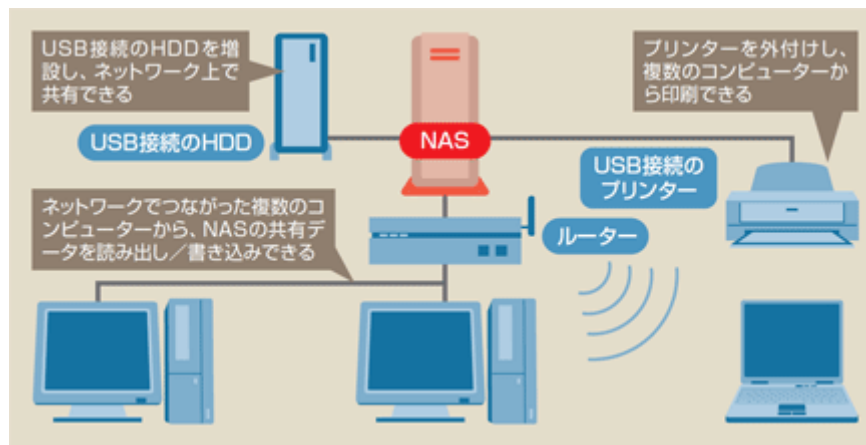


■HDDとNASの違い

「NAS」とは、「network attached storage」の略称で、ネットワークに直接つないで利用する記録装置のことです。

一般に、LAN 端子を装備した HDD のことで、ネットワークの利用に特化した機能を備えるのが特徴です。

外付け型 HDD の場合は、USB や IEEE1394 などを経由してファイルをやり取りします。これに対し、NAS は LAN を経由。そのため、LAN につながったパソコン同士であればファイルを簡単に共有できます(下図)。例えば、デジタルカメラで撮影した写真を NAS に保存しておけば、LAN 上にある別のパソコンでもその写真を見られるようになります。



NAS を LAN 内に設置すると、複数のパソコンでファイルを共有できるようになる。最近の NAS は USB 端子を備えていて、プリンターや HDD などの機器を接続すると、接続した機器も共有できる

NAS でこうしたことが可能なのは、その内部にデータの読み書きを制御する CPU や独自の OS が組み込まれているためです。つまり、NAS は単体でファイルサーバーとして動作します。一方、外付け型 HDD を使って同じことをする場合、その HDD を接続したパソコンをファイルサーバーに設定して、電源を入れたままにしておく必要があります。

NAS の接続方法は、外付け型 HDD と同様に簡単。ルーターやハブの LAN 端子につなぐだけです。無線 LAN に対応した NAS もあります。

●USB 接続の機器も共有

NAS は、ファイルのアクセス権限を設定する機能も持っています。1 台の NAS で「自分が使うマイフォルダー」「家族で使う共有フォルダー」といった具合に、フォルダーごとにアクセス権を設定可能です。人の目に触れさせたくないファイルも安心して保存できます。

最近では、LAN 端子とは別に USB 端子を備えた NAS が増えています。そうした製品では、USB 接続の周辺機器をつないで共有化できます。例えば、プリンターをつなげば、複数のパソコンから印刷できるようになります。また NAS の空き容量が少なくなった場合には、USB 接続の外付け HDD を増設することも可能です。一部の製品は、対応する USB 接続のテレビチューナーを接続すると、テレビ番組をパソコンを介さず NAS に直接録画できるものもあります。

ただ、NAS は外付け HDD に比べて高機能な分、値段も張ります。例えば 300GB の容量では、外付け型 HDD の約 1 万 5000 円に対し、NAS は約 2 万～約 3 万円もします。NAS の導入対象は、あくまで複数台のパソコンや複数のユーザーがファイルを共用する環境。個人のスタンドアローン(パソコン 1 台)環境なら、外付け型 HDD で十分です。